

ダイヤのような雪下

新座市立東北小6年

高野 七海 11（新座市）

「ザーッ」。大雨だと、たいくつで嫌な気分になるだろう。でも私が見た雪と傘はいつもより、きれいに見えた。ある日友達と下校している時だった。「ポツポツ」と雨が降ってきた。家に近づくほど強さを増す。まるで、私と雨の戦いだ。傘にも限界が来ている。私は目を見開いた。雨がもう「降参だ」とでも言うように、弱まっている。しまいには、空がカラッと晴れた。さっきまで本当に降っていたのかをうたがってしまう。ふと、持っている傘に目を向ける。思わず口をぽかっと開いてしまった。なぜなら傘から流れてきた雪が太陽の光で反射されまるでダイヤが流れているように思えた。これは空と傘と私を作った一つの大切な思い出だ。